■アフターサービス

▼サービスを依頼される前に

サービスを依頼される前に22ページ「故障・異常の見分け方と処置方法」および23ページ「サービスをお申しつけになる前に」の項を見て、もう一度ご確認ください。
確認の上それでも不具合な場合は、ご自分で修理なさらないで、お買い求めの販売店にご連絡ください。

●アフターサービスをお申しつけいただくときには、次のことをお知らせください。

①形式名……OVF-370D
②現　象……できるだけ詳しく
③道　順……付近の目印も
④おところ・お名前・電話番号

▼転居される場合

ご転居によりお買い求めの販売店のアフターサービスを受けられなくなる場合は、前もって販売店にご相談ください。
ご転居先での日立家電品の取扱店を紹介させていただきます。
なお、周波数の違う地域へご転居の場合は燃焼用空気量の調整が必要です。

▼保　証

●この商品は保証書付きです。保証書は、販売店で所定事項を記入してお渡しいたしますから、記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。

●保証期間はお買い上げの日から１年間です。
なお、保証期間中でも有料となることがありますので、保証書をよくお読みください。

●保証期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
当社は、販売店からの注文により、補修用性能部品を販売店に供給します。

▼補修用性能部品の保有期間について

●石油ファンヒーターの補修用性能部品の最低保有期間は製造打切後６年です。
この期間は通商産業省の指導によるものです。

●性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

アフターサービスについてご不明の場合、その他お困りの場合は、お買い求めの販売店か、別紙(黄色用紙「日立家電品ご相談窓口一覧表」)のご相談窓口にお問い合わせください。

日立家電販賣株式會社　日立熱器具株式會社
〒105　東京都港区西新橋２－15－12　電話(03)502－2111

NB2231J-A 05C(M)

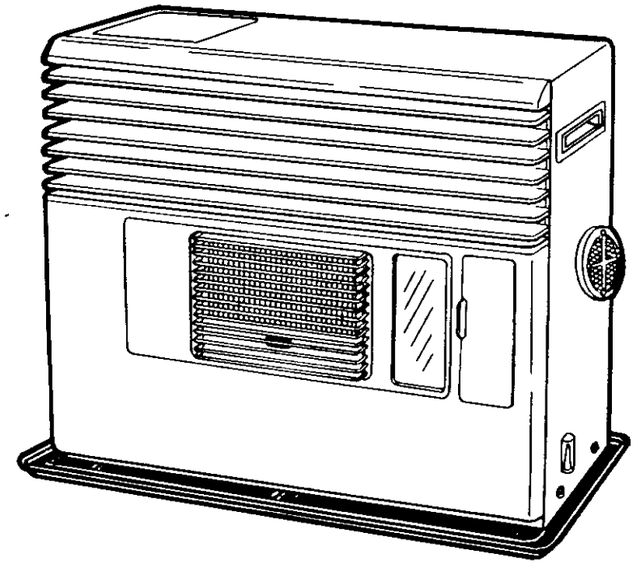
取扱説明書
注　意　書

HITACHI
正しく使って上手に節約

日立石油ファンヒーター

〈開放式石油ストーブ〉

OVF-370D形



このたびは、日立石油ファンヒーターをお求めいただき、まことにありがとうございました。
この「取扱説明書・注意書」をよくお読みいただき正しくご使用ください。
なお、お読みになった後は、「保証書」「ご相談窓口一覧表」とともに大切に保存してください。

目　次

●変質灯油・不純灯油の注意……2
●特に注意していただきたいこと……3～6
●使用する場所……7
●各部の名称……8～9
●使用方法……10～18

①使用前の準備……10
②給　油……11
③点火前の準備と確認……12
④点火(タイマーを使用しない場合)……13
⑤点火(タイマーを使用する場合)……13
⑥室温の調節……14
⑦炎の確認……15
⑧消　火……15
⑨消火後再点火するときの注意……16
⑩各種ランプ表示とお知らせブザーについて……17～18

●安全装置……19
●日常の点検・手入れ……20～22
●故障・異常の見分け方と処置方法……23
●サービスをお申しつけになる前に……24
●部品交換のしかた……25
●保管(長期間使用しない場合)……25
●仕　様……26
●アフターサービス……27

□変質灯油・不純灯油の注意

▼変質灯油とは……

変質灯油とは、次のようなものです。

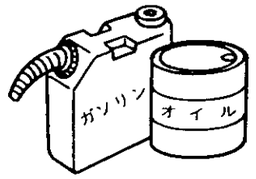
- ●ひと夏持ち越した古い灯油。
- ●日当たりの良い場所に長期間保管した灯油。
- ●温度の高い場所に長期間保管した灯油。
- ●容器のふたをあけたまま長期間保管した灯油。
- ●白いポリ容器で保管してあった灯油。

強く変質した灯油は、うす黄色味をおびたり、すっぱいにおいがします。

▼不純灯油とは……

不純灯油とは、次のようなものです。

- ●灯油以外の油（ガソリン、シンナー、天ぷら油、機械油、重油など）が混入した灯油。
- ●水やごみが混入した灯油。



▼変質灯油、不純灯油をご使用になりますと…

- ●点火不良や異常燃焼の原因となります。
- ●水の混入した灯油を使用しますと、炎が小さくなったり、途中で火が消えてしまいます。
- ●ガソリンやシンナー等、揮発性の高い油を使用されますと、火災の原因になります。

▼変質灯油、不純灯油を使用しないための注意

①灯油以外の油で使用していた容器や給油ポンプは、使用しないでください。
②古い容器を用いるときは、きれいな灯油で内部を２・３回洗ってから用いてください。

▼変質灯油、不純灯油を使用したときの処置のしかた

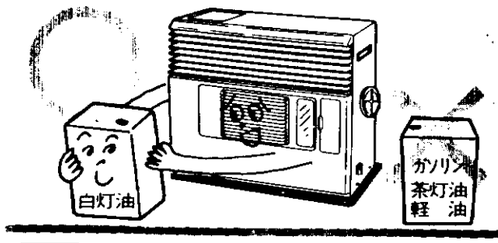
給油タンク内、油受けざら内の灯油をきれいに抜きとり、きれいな灯油で２・３回洗ってから使用してください。
（油の抜きかたは、21ページ「油受けざらの水抜き」項を参照してください。）

□特に注意していただきたいこと

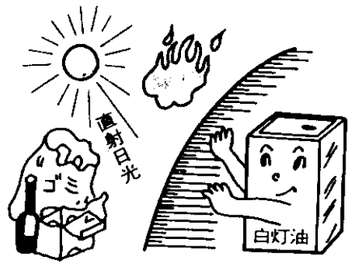
ストーブの使用、灯油の取扱いで、次の点は特に注意してください。

▼燃　料

白灯油(JIS１号灯油)を必ずお使いください。
変質灯油、汚れた油、水の混じっている灯油、ガソリンなどは、絶対に使用しないでください。
なお、揮発性の高いガソリン、ベンジン、シンナー等を用いると、引火、爆発の危険があります。

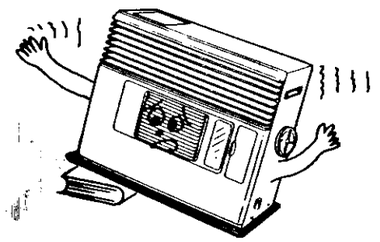


灯油は、必ず火気、雨水、ごみ、高温及び直射日光を避けた場所に保管してください。

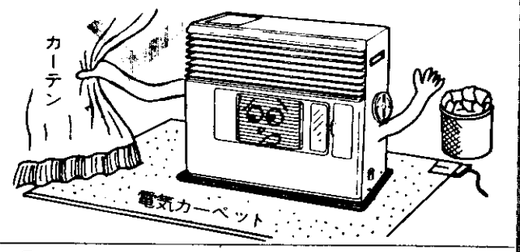


▼使用する場所

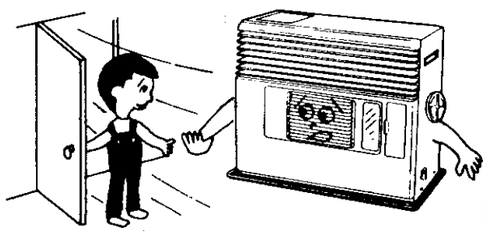
1 水平な場所で使用してください。
振動の激しいところでは、使用しないでください。
また、丈夫な床の上でご使用ください。



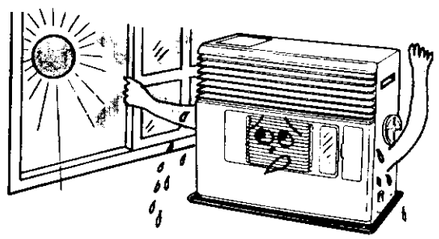
2 カーテンや燃えやすいもののそばなどでは使用しないでください。
電気カーペットなど他の暖房器具の上に設置することもおやめください。
火災の原因になることがあります。



3 部屋の出入口などで、人の通るところや風のあたるところでは使用しないでください。
異常燃焼したり、消火することがあります。

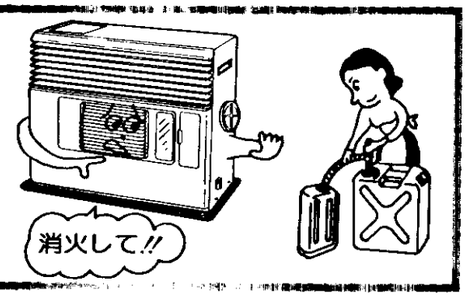


4 直射日光の当たる場所や、温度の高い場所では使用しないでください。
油の温度が上がりすぎて危険ですし、また給油タンクの空気膨張により灯油があふれることがあります。



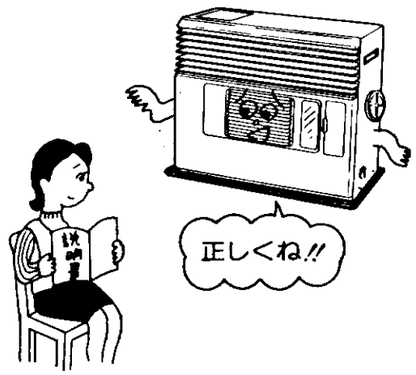
▼給　油

給油は、必ず消火してから行ってください。
燃焼中は給油タンクを取出さないでください。
- ●こぼれた油は、よくふきとってください。
- ●給油口口金は、確実にしめてください。
- ●給油タンクは静かに出し入れしてください。

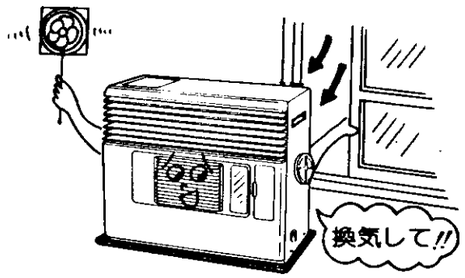


▼使　用

1 正常に燃焼していることを確かめてください。
(15ページ参照)

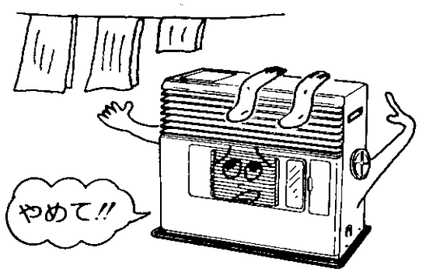


2 使用中は、時々換気して、新鮮な空気を補給してください。
酸素が不足すると、不完全燃焼し、一酸化炭素などが発生して危険です。
(中毒になる恐れがあります。)
- ●可燃性ガスの発生しない場所又はたまらない場所で使用してください。

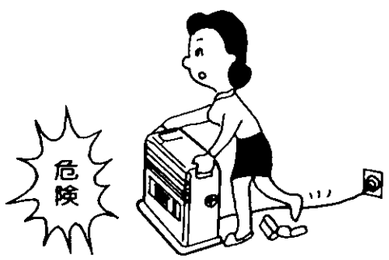


●換気の目安は６ページをご参照ください。

3 衣類の乾燥などには使用しないでください。
衣類などをストーブの上に置いたりすると、温風の出口がふさがれてしまい、ストーブ内に熱がこもり大変危険です。
また衣類が落下して火がつき、火災になることがよくあります。

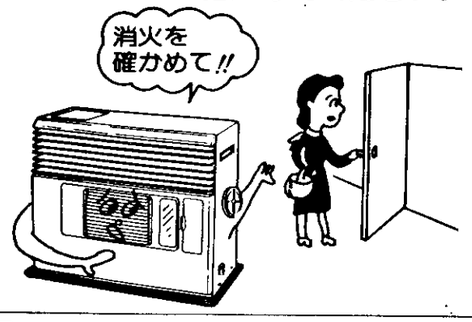


4 火のついたまま持ち運ばないでください。転倒すると危険です。
ストーブを移動するときは、必ず消火してから、傾けないよう静かに持ち上げて運んでください。

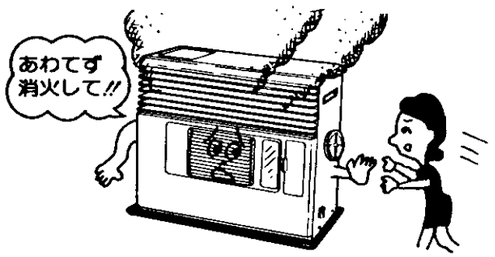


―特に注意していただきたいこと―

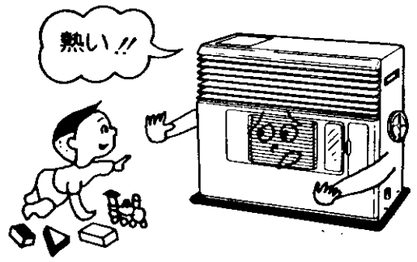
5 外出時や就寝時は、火が完全に消えていることを確かめてください。



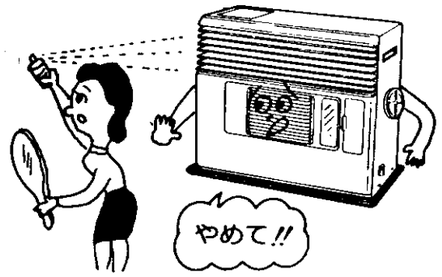
6 万一異常燃焼を起こしたときや、緊急の場合でも、あわてずに消してください。(15ページ参照)



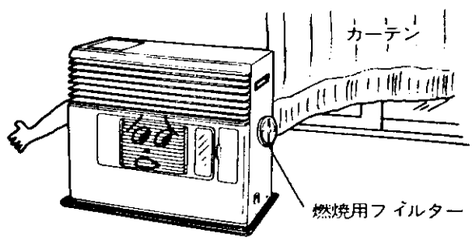
7 燃焼中は、温風吹出口部の温度が高くなりますので、やけどしないようご注意ください。
また、紙や布、プラスチックなどの異物を差し込まないでください。



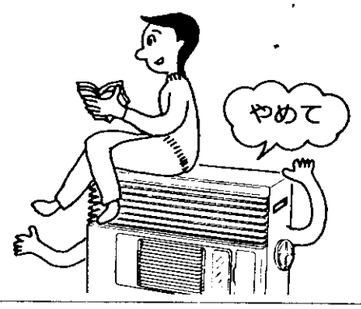
8 ヘアスプレーなどの引火物を近くで使用しないでください。
引火の危険があります。



9 本体側面の燃焼用フィルターをふさがないでください。
衣類やカーテンなどでふさがれると、炎が小さくなり、不完全燃焼や運転が止まることがあります。



10 ストーブに腰かけたり、重いものをのせたりしないでください。
やけどやストーブの変形のおそれがあります。

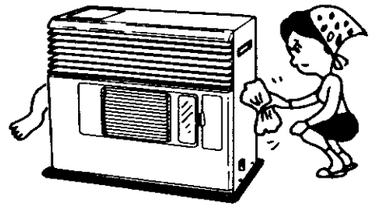


11 幼小児、お年寄り、心身の不自由な人達だけでは使用しないよう、周囲の方がじゅう分注意してください。
また、特殊な使い方（養蚕室、温室など人のいないところでの使用、あるいはストーブを改造して他目的に使う）は、火災等の危険性がありますのでおやめください。

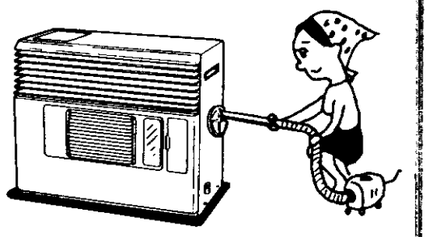
▼日常の点検と手入れ

1 日常の点検・手入れは必ず行ってください。
(20～22ページ参照)

2 故障・破損したものは使用しないでください。
●不完全な修理は危険です。万一具合が悪くなって処置に困るような場合は、お買い求めになった販売店に連絡してください。
●燃焼中は温風吹出口の掃除はおやめください。塗装をいためます。



3 燃焼用フィルターは、一週間に１回以上は掃除してください。(20ページ参照)
側面の燃焼用フィルターが目詰まりすると、炎が小さくなり、不完全燃焼や運転が自動的に止まることがあります。
●外して掃除したときは、必ず元どおり取付けてください。
●燃焼中は絶対に行わないでください。



▼ガラス面について

❶正常燃焼時でもガラス面がときどき黄色く光ることがあります。
炎に若干赤火が入ることがあり、これが映るためで、異常ありません。
❷ガラス面の赤熱度合は、器具によって多少異ります。
また弱燃焼時には火力が弱くなるため暗くなります。
❸長時間使用するとガラス面が白くにごってきますが、異常ではありません。
❹ガラス面に物をぶつけたり、水をかけたりしないでください。ガラスが割れます。
❺ガラス面が割れたままでは、絶対に運転しないでください。
異常過熱して危険です。

▶お部屋の換気の目安について

このストーブを使用時は、お部屋の換気が必要です。以下に一例を示しますので、これを目安に換気を行ってください。
●室温20℃、外気温５℃、無風のとき、６畳間で使用している場合。
高さ1.2m(４尺)の窓を、90cm幅で１時間に１回・１分間あけるかまたは30分に１回・30秒間あければ、換気は十分です。(風のあるときは時間が少し短かくてすみます。) なお、窓を開けると室温は下がりますが、窓を閉めれば壁や天井が暖まっていますから、すぐに元の室温に戻ります。

■使用する場所

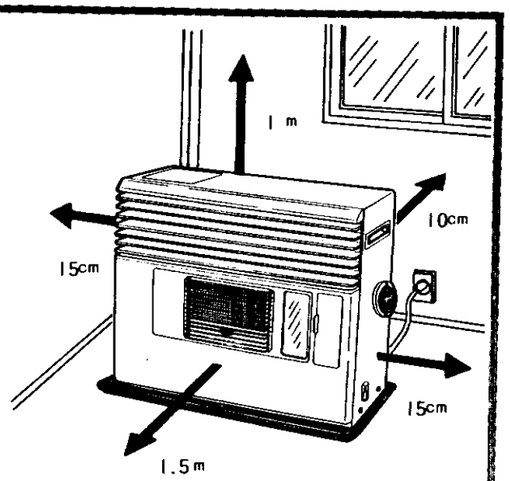
ストーブを安全により効果的に使用するためには、場所の選定が大切です。

▼安全に使用するために

1 ストーブは右図に示すような寸法内に、可燃物や障害物のない場所でご使用ください。

2 可燃性のマントルピースでの使用は禁止されています。
なお、防火処置をしてある場合でも右図の寸法は必ず守ってください。
守っていただけないと、火災の原因となるおそれがあります。

3 不安定な物を乗せた棚などの下や、ほこりの多い場所では使用しないでください。



▼効果的に使用するために

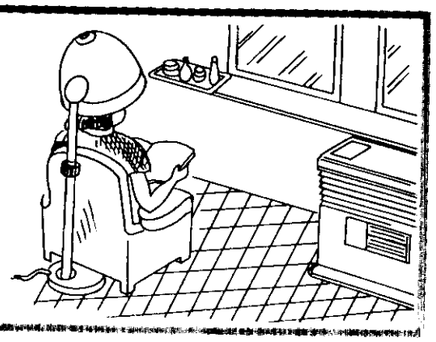
1 このストーブは、ムダな暖房をしないよう自動的に室温調節する「おさえめ運転」ができます。
14ページを参照して、上手に室温の調節を行ってください。

2 暖房に効果的な場所に置いてお使いください。
外気に接する窓の下や壁面の近くに置くと、冷気が暖められて効果的です。

3 次のようなことにも注意してお使いいただくと、より効果的です。
❶日中は極力太陽の光をお部屋に入れ、夕方は早目に窓やカーテンを閉めて、お部屋に入った太陽の熱を逃さないようにする。
❷夕方お部屋が冷えてから点火するのではなく、昼間の暖かさが残っているうちに点火する。
❸窓にはカーテンを、すき間風の入るところには目張りをする。
ただし、カーテンがストーブに近付かないよう注意する。

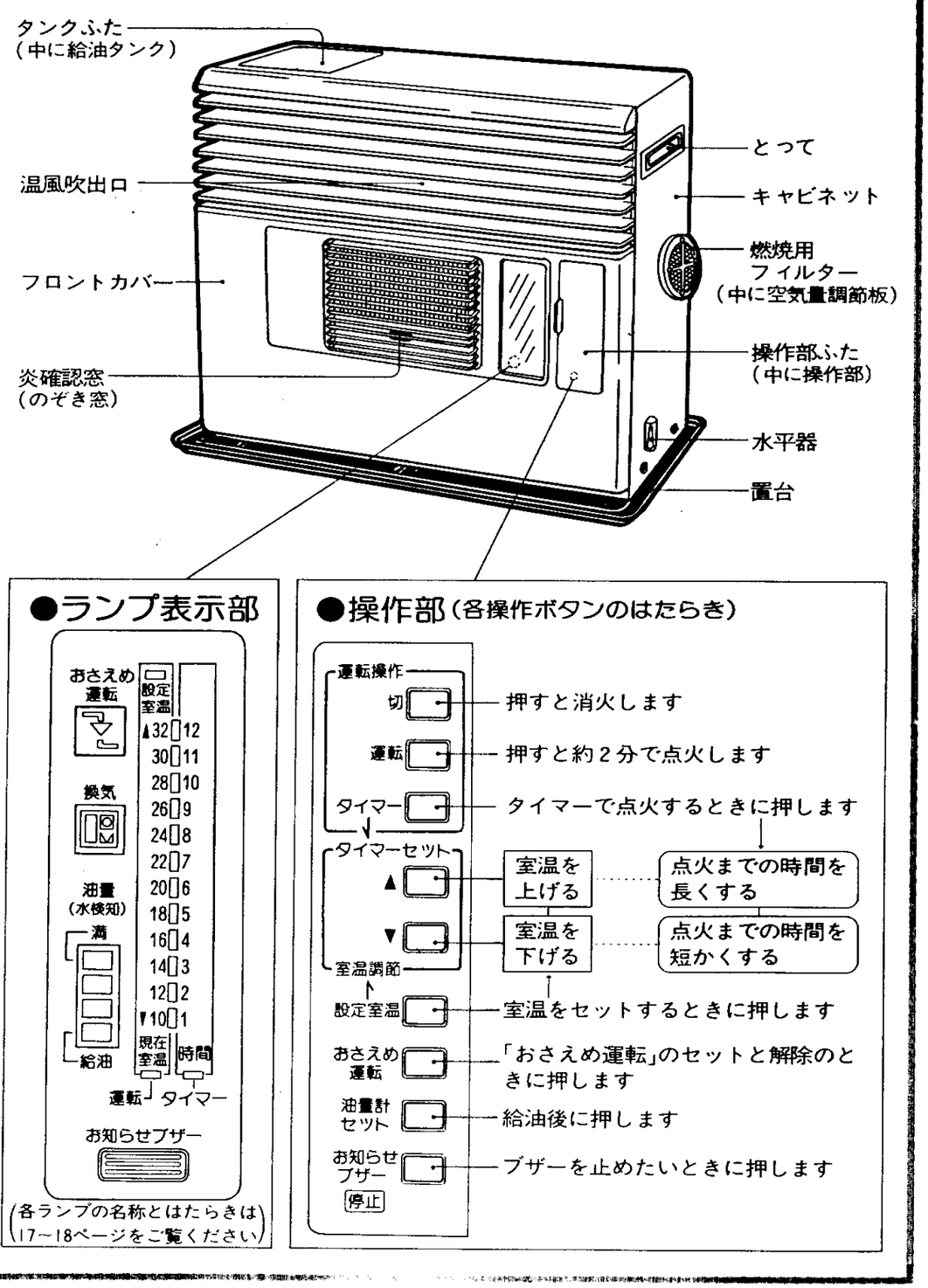
▼ご使用を避けていただきたい場所

理・美容院、メッキ・塗装工場、電子部品組立工場、冷凍機製造工場、印刷工場、クリーニング店、繊維関係の工場、などでの使用は避けてください。
●ヘアスプレーや薬品等に含まれるハロゲン系化合物等の影響で、不完全燃焼や途中消火、異常な錆(さび)など、故障の原因となる場合があります。

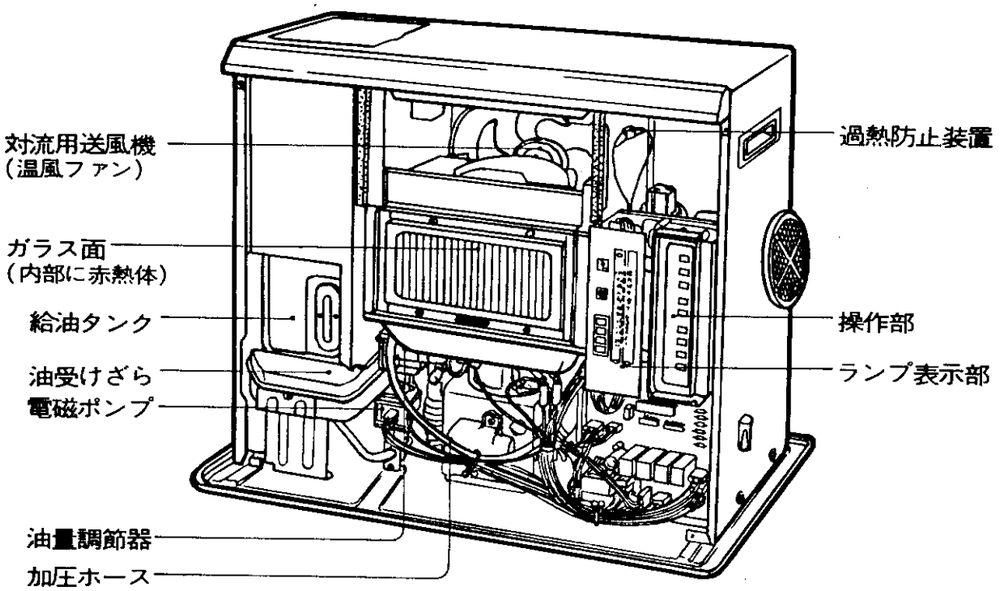


各部の名称

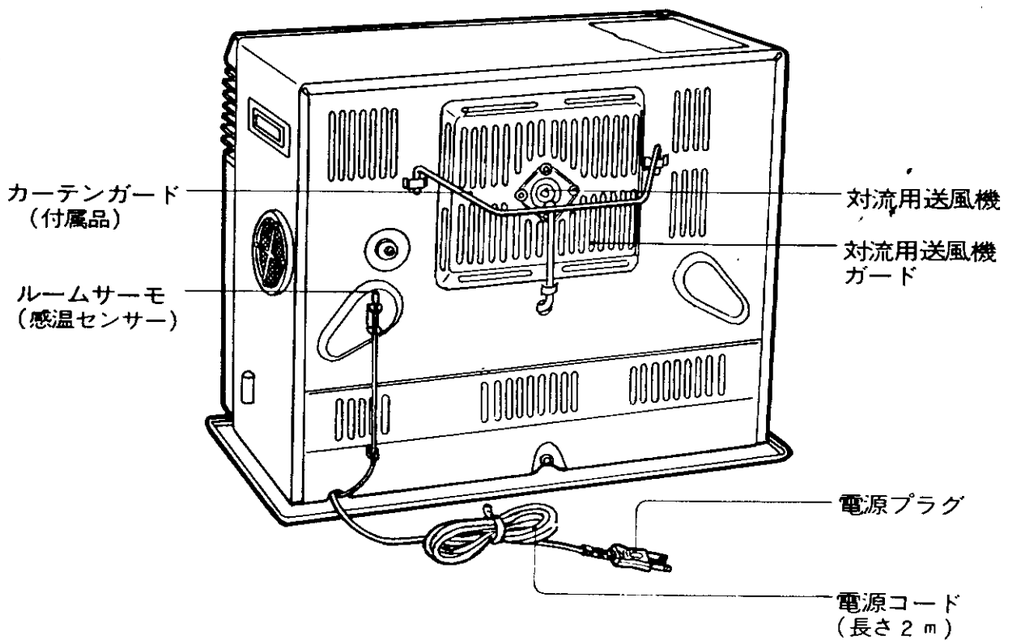
▼外観図



内 部(温風吹出口、フロントカバー部を外した図)



背 面



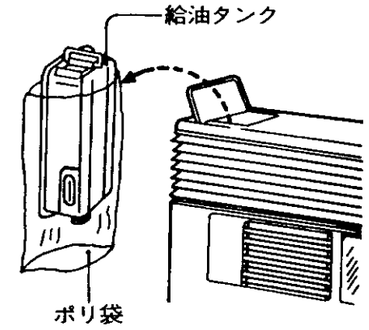
1 使用前の準備

1 包装材の取外し

❶段ボール箱内よりストーブを取出しましたら、パッキン等の包装材を取り除いてください。

❷給油タンクを保護しているポリ袋を外してください。

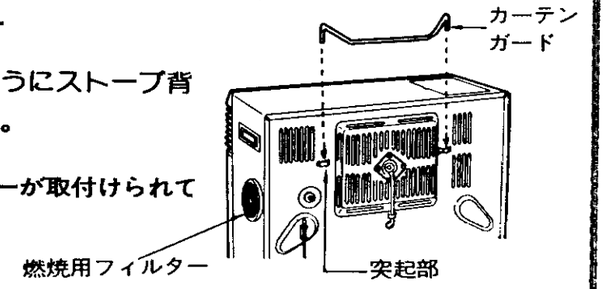
●ダンボール箱は、シーズンオフのストーブ保存用としてご利用ください。



2 カーテンガードの取付け

付属のカーテンガードを、図のようにストーブ背面の突起部に差し込んでください。

●ストーブの側面に燃焼用フィルターが取付けられていることを確かめてください。



3 周波数(Hz)調整

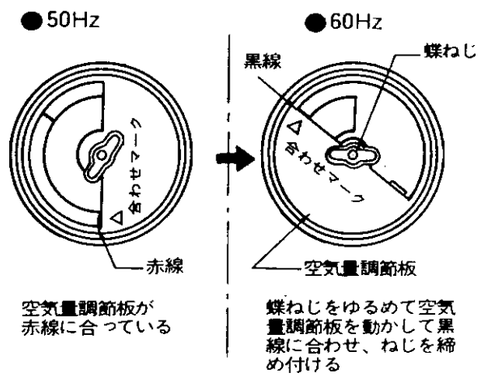
❶50Hz地区でご使用の場合は調整の必要はありません。

❷60Hz地区でご使用の場合は、空気量調節板の調整が必要です。次のように調整してください。

空気量調節板はストーブ右側面の燃焼用フィルターの内側にあります。
燃焼用フィルターを外し、内部の空気量調節板を右図のように調整してください。

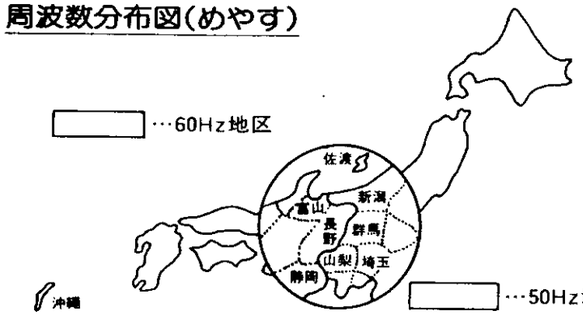
●赤線、黒線の位置は、一台ごとに調整していますので、器具によっては右図の位置と多少ずれていることがあります。

●60Hz地区でこの調整をしないと、燃焼用の空気が多くなり、点火しなかったり、途中で消火したり、異常燃焼したりします。



(調整後は燃焼用フィルターを元どおり取付けてください。)

周波数分布図(めやす)



●電源周波数がわからない場合は、お買い求めの販売店か、最寄りの電力会社にお尋ねください。

2 給　油

1 使用燃料

燃料は必ず白灯油(JIS 1号灯油・引火点40℃以上)をご使用ください。

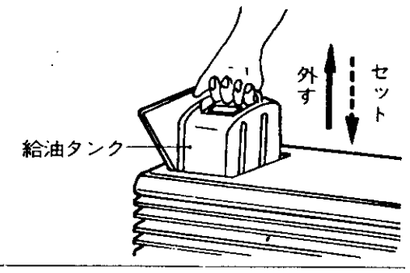
●ガソリン、シンナー、ベンジンなど、揮発性の高い油は、引火や爆発の危険がありますので、絶対に使用しないでください。

2 給油の際の手順と注意

給油は必ず消火してから行い、燃焼中は給油タンクを取り出さないでください。

❶給油タンクを取り出してください。

給油口口金は油でぬれていますので、ボロ布などでふいて、油のしずくを落とさないよう注意してください。

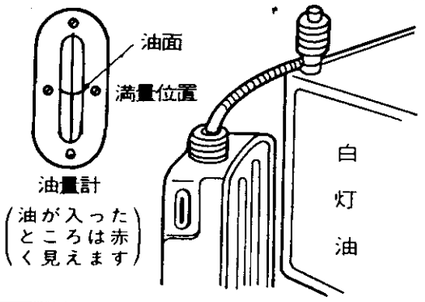


❷給油口口金を外し、給油してください。

口金を反時計方向に回して外し、市販の給油ポンプ等で給油してください。

●油量計の中央まで油面がきたら満量です。それ以上給油しないでください。

●外した口金には、ごみやほこりなどが付かないよう注意してください。



❸給油口口金をしっかりとしめ、口金側を下にして油もれのないことを確かめたのち、給油タンクをストーブにセットしてください。

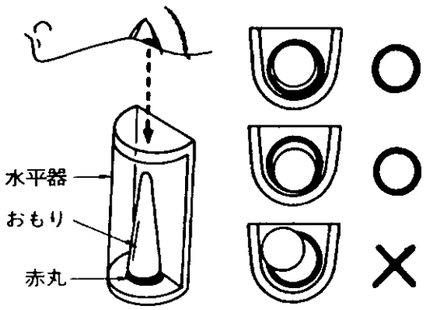
●こぼした油は、すぐにきれいにふきとってください。

3 点火前の準備と確認

ストーブが水平になっているか確認してください。

ストーブ右側面にある水平器を上から見ておもりが赤丸内にくるような場所に設置してください。

●赤丸の範囲外で使用しますと、不完全燃焼したり、対震自動消火装置の誤作動の原因となります。



電源コードのプラグを、コンセントにしっかりと差し込んでください。

電源は一般家庭用100Vです。

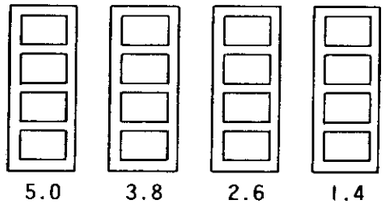
60Hz地区の場合は空気量調節板の調整が必要ですので、ご注意ください。

●電源プラグはしっかりと差し込み、抜き差しは必ずプラグを持って行ってください。

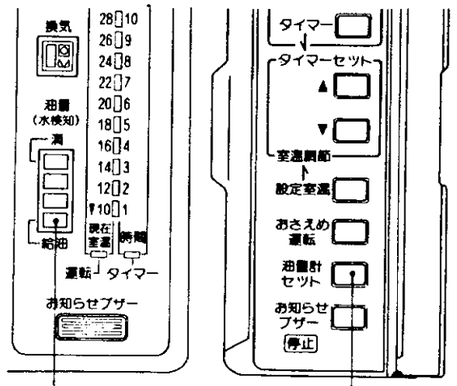
電子油量計について(油量の確認方法)

給油後、運転を開始しましたら、油量計セットボタンを押してください。

4個の油量計ランプが点灯し、油量の確認ができます。



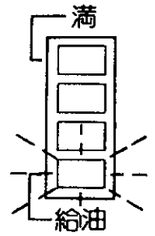
●マイコンで、運転時間を計算して消灯していき、残油量を表示します。



給油の予告

給油タンクが"空"になり、消火する15分前になると最下段のランプ1個が点滅し、同時にブザーが鳴って知らせます。

●給油タンクが"空"に近い状態のときに油量計セットボタンを押すと、一度4個のランプが点灯しますが、まもなく1個の点滅に変って油切れを知らせます。

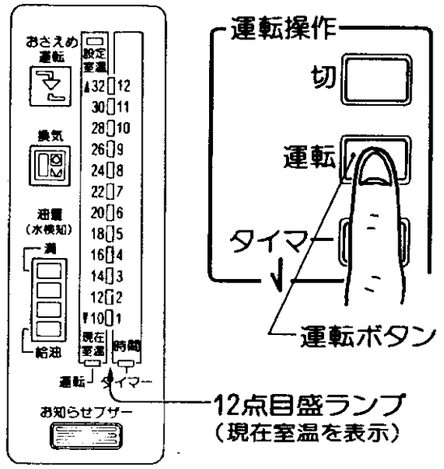


4 点　火(点火タイマーを使用しない場合)

1 運転ボタンを押してください。
運転ランプが点滅し、予熱が始まります。
同時に現在の室温が12点目盛ランプに表示されます。

2 予熱(約2分)が完了しますと、自動的に点火します。
同時に運転ランプが点灯に変ります。

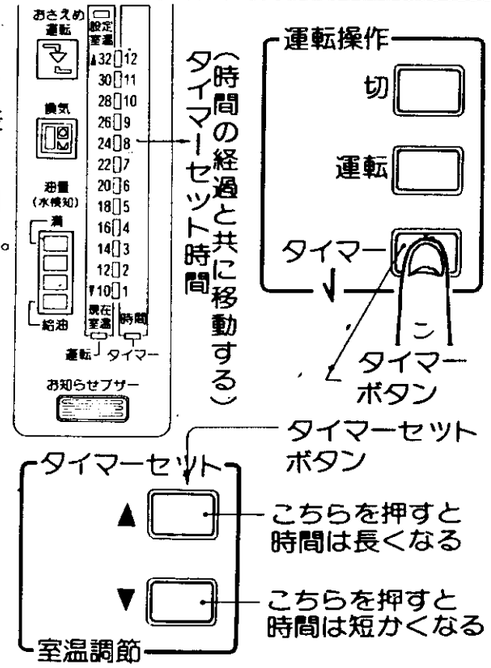
3 炎確認窓から炎の状態を確かめてください。(15ページ参照)



5 点　火(点火タイマーを使用する場合)

1 タイマーボタンを押してください。
タイマーランプが点灯し、タイマーセットされている時間が12点目盛ランプに表示されます。
「8」のときは8時間後、「8」・「9」と2個点灯のときは8時間30分後に点火します。

2 時間を変える場合は、タイマーセットボタンを押して希望の時間に合わせてください。
●セットが終ったときから、タイマーは再び作動しはじめます。
●タイマー作動中に運転ボタンを押すと、タイマーは停止し、点火がはじまります。



3 セットした時間になりますと、運転ランプが点滅をはじめ、予熱(約2分)完了後に自動的に点火します。
●タイマーで点火後約1時間しますと自動的に消火するようになっています。そのまま1時間以上運転するときは、点火後運転ボタンを押してください。

6 室温の調節

あらかじめ設定した温度をさかいに、自動的に「強燃焼」、「弱燃焼」をくり返し、室温調節を行います。

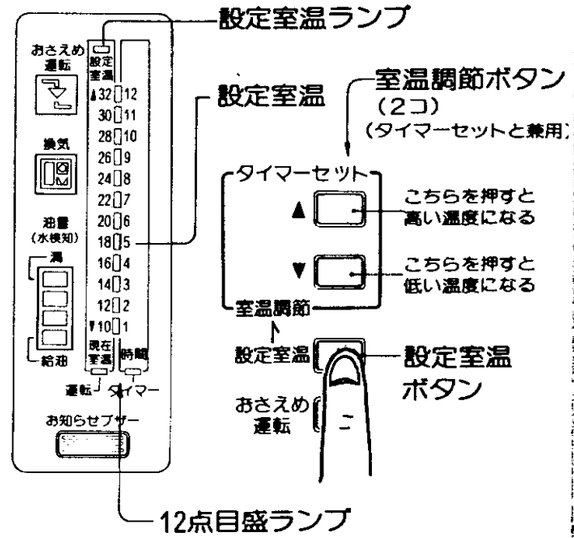
このストーブは、あらかじめ18℃の設定室温を記憶させてありますので、そのまま運転すれば、室温を18℃に保つよう自動運転します。

■室温設定の変えかた(停止中は変えられません。)
設定温度を変える場合は、次のように行ってください。

❶設定室温ボタンを押してください。
設定室温ランプが点滅し、12点目盛ランプが1個の点滅に変ります。
●点滅しているところが設定室温です。

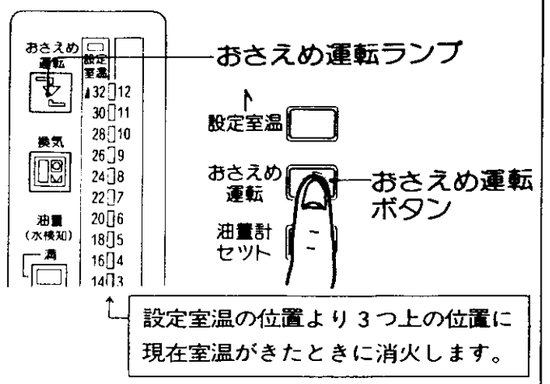
❷室温調節ボタンを押して、希望の温度に合わせてください。
点滅しているランプが移動します。
●22に合わせれば、設定室温は22℃になり、停電やコンセントを抜かない限り、設定室温として記憶されます。

❸22秒後に、自動的に12点目盛ランプが現在室温の表示に変ります。



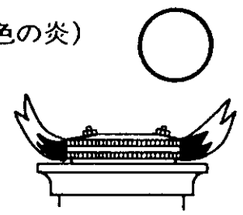
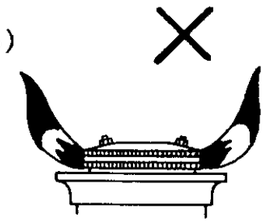
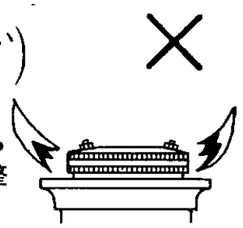
●設定室温は室内温度の目安を示します。
周囲に置いてある物などにより温風の流れが変りますので、お部屋の温度計の温度と一致しないことがあります。

■おさえめ運転(強・弱・切の自動燃焼3段制御による室温の調節)
むだな暖房をおさえるため、設定室温より約5℃上昇すると自動的に消火し、設定室温まで下がると自動的に再点火する"おさえめ運転"ができます。
●おさえめ運転をする場合は、おさえめ運転ボタンを押してください。
(おさえめ運転ランプが点灯します。)
●おさえめ運転をやめる場合は、もう一度おさえめ運転ボタンを押してください。



7 炎の確認

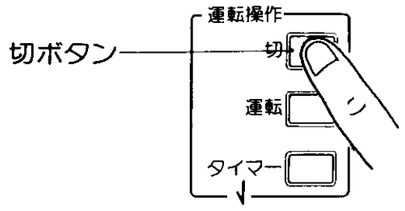
燃焼確認窓から炎を確認してください。
正常燃焼させるため、工場出荷時に調整してありますが、万一、赤火の長い炎や、炎が飛んだりしている際は、ストーブが傾いていることがありますので、12ページを参照して水平の確認をしてください。

❶正常燃焼 （青色か青桃色の炎） 	❸赤火燃焼 （大きな赤火が出る） 
❷正常燃焼 （炎の先端に少し赤火が出る） 	❹リフト燃焼 （炎が飛んだり、浮いたりする **においが出ます** **●右上りになっている** **●空気量調節板を調整していない** 

●炎の確認は、設定室温を目盛32に合わせて確かめてください。
●火力(熱量)の切換え時、炎が赤火になることがありますが、数秒で正常になります。異常ではありません。
●ホコリ等を吸い込みますと炎の色が赤くなることがありますが、異常ではありません。
●加湿器を使用しますと炎の色が変わります。
特に超音波式の加湿器を使用しますと、炎の色が赤くなりますが、異常ではありません。(水に溶けているカルシウムが燃えて炎の色が変るためです。)

8 消　火

1 切ボタンを押してください。
運転ランプが消えます。



2 火が完全に消え、燃焼用送風機、対流用送風機が停止したことを、確認してください。

●２日以上家をあけるなど、長時間使用しないときは、念のため電源プラグをコンセントから抜いておいてください。
●運転中に電源プラグを抜いて消火することは、おやめください。

9 消火後再点火するときの注意

消火後再点火するときは、５秒程待ってから13ページ「点火」項にしたがい、再点火を行ってください。
（この５秒間は電気回路がリセットするのに要する時間で、５秒以下で再点火されますと、12点目盛ランプを除いた全てのランプが点灯し、運転しません。）

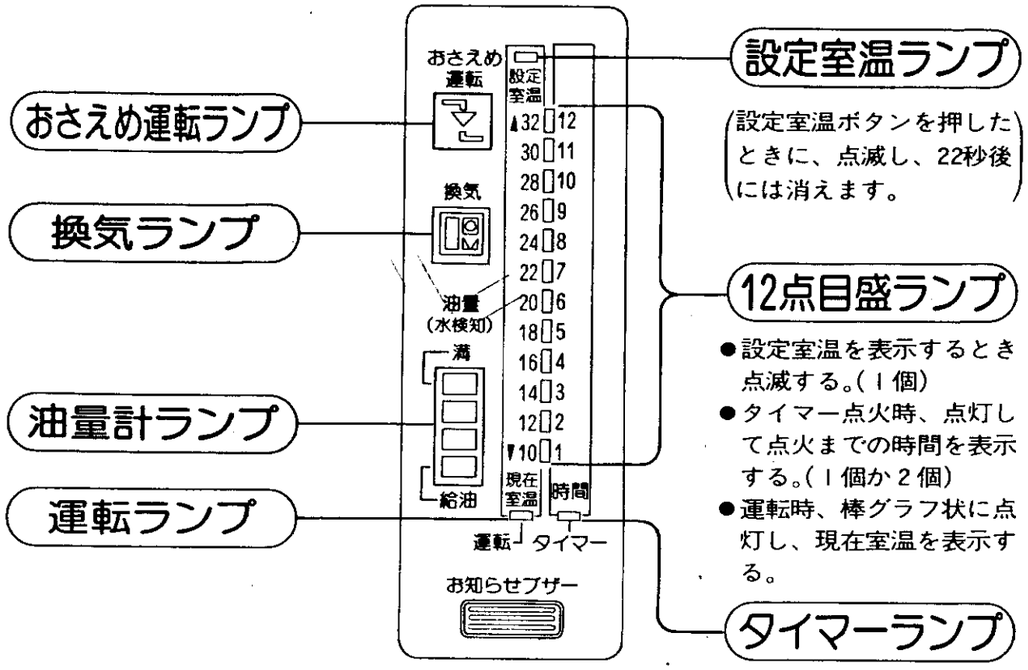
ご注意

●燃焼中に停電しますと自動的に消火します。
通電後再運転する際は、運転ボタンを押してください。
●停電したり、電源プラグをコンセントから抜きますと、室温の設定、タイマー点火時間、油量表示、おさえめ運転、等のセットした記憶も消えますので、あらためてセットしなおしてください。
●消火時、万一切ボタンを押しても火が消えないときは、電源プラグをコンセントから抜き、お買い求めの販売店に点検をご依頼ください。
●運転操作の各ボタンは、１つ１つ確実に押してください。
２つのボタンを一緒に押しますと、確実な動作をしないことがあります。
●点火時や消火時には多少灯油のにおいが出ますが、異常ではありません。
また、消火後再点火する際にも多少においますが、異常ではありません。
●停電時、対震自動消火装置や過熱防止装置がはたらいたとき、燃料切れになったとき、等にも多少灯油のにおいが出ますが、異常ではありません。
●点火後、５分以内に消火しますと、白煙が出ることがありますが、異常ではありません。

ストーブを移動する際のご注意

●ストーブを移動する際は、必ず消火してください。
燃焼したまま移動させると、炎が大きく立上がったり異常燃焼し、大変危険です。
●移動する際は、静かに持ち上げて水平に移動してください。
揺らしたり、傾けたりして移動すると、油受けざらから灯油が流れ出し、火災の危険やにおいの原因となります。
（消火した後でも揺らしたり、傾けたりしますと、移動後再点火した際赤火の出る異常燃焼になることがありますが、しばらくそのままお待ちください。まもなく正常燃焼に戻ります。）

⑩ 各種ランプ表示とお知らせブザーについて



運転ランプ

点滅 バーナーの予熱中です	このまま約2分間お待ちください。(点火時)
点灯 運転中です	

タイマーランプ

点灯 タイマー動作中です	
点滅　お知らせブザーが2回鳴る あと10分で自動消火します	●続けて使用したい場合は運転ボタンを押す。 ●消火したい場合は切ボタンを押す。
点滅 タイマー点火後1時間燃焼して自動消火した	●運転したいときは運転ボタンを押す。 ●使用しない場合は、切ボタンを押す。 （タイマーランプは消えます。）

換気ランプ

換気ランプにたよらず1時間に1～2回は必ずお部屋の換気をしてください。

点滅　お知らせブザーが鳴る 長時間換気しないで運転したため、お部屋の空気が異常状態に近づきました〔換気不足の予告〕	●切ボタンを押してから窓を開けるなどして換気する。 ●換気不足でお部屋の空気中の酸素が不足してくると換気ランプが点滅し、お知らせブザーが鳴って換気をうながします。
点灯 ①お部屋の空気が異常状態になって消火しました	●切ボタンを押して換気ランプを消し、窓を開けるなどしてじゅう分換気する。 ●あらためて運転したいときは運転ボタンを押す。
②何らかの原因で点火ミスや途中で消火したため、炎検知装置がはたらきました	●切ボタンを押し、あらためて運転ボタンを押す。 点火後しばらくして消火したときや、点火せずに換気ランプが点灯したときは、23ページを参照して「点火しない」の項の処置をしてみてください。

油量計ランプ

点灯 給油タンク内の残油量を表示しています	下段の1個のみになりましたら、給油する。
1個点滅　お知らせブザーが鳴る あと15分で灯油がなくなり消火します	切ボタンを押して消火し、給油する。
3個点滅　お知らせブザーが鳴る 油受けざらに水が混入しています	油受けざらの水抜きを行う。(21ページ参照) (ランプは消え、ブザーも止まります。)

おさえめ運転ランプ

点灯 おさえめ運転中です	おさえめ運転をやめるときは、もう一度おさえめ運転ボタンを押す。

(ご注意)

お知らせブザーを鳴らさないようにしたいときは、操作部のお知らせブザーボタンを押してください。この場合はランプ表示だけになります。

■安全装置

▼対震自動消火装置

強い振動や衝撃が与えられたとき、地震(約震度5)のとき、ストーブを傾けたときなどに作動して、自動的に消火します。(全てのランプが消えます。)

●自動復帰しますので、再セットの必要はありません。

●再点火する際は、点火操作をしなおしてください。

▼過熱防止装置

対流用送風機ガードが目詰りやカーテンでふさがれたり、温風吹出口がふさがれたりして、ストーブ内が異常に高温になったとき作動して、火災やストーブを保護するために自動的に消火します。(全てのランプが消えます。)

●過熱の原因を取り除き、ストーブがよく冷えてから点火操作してください。

●原因がわからないときは、お買い求めの販売店にご相談ください。

▼点火安全装置(炎検知装置)

点火ミスや、炎が小さくなったとき、換気不足や燃焼用フィルターの目詰りなどで炎が飛んだりしたときに作動して、運転を自動的に停止します。
(このときは換気ランプが点灯します。)

●原因をよく調べて処置してから点火操作をしてください。

●原因がわからないときは、お買い求めの販売店にご相談ください。

▼停電時安全装置

停電したり、電源プラグが抜けたときに作動して、自動的に消火します。

●停電が回復しても自動的に再運転はしません。
再点火する際は、点火操作をしなおしてください。

▼電流ヒューズ(10A)

万一配線のショートなどにより過電流が流れたとき、電流ヒューズが溶断して、自動的に運転を停止します。
このときは、運転ボタンを押しても運転できません。

●必ずお買い求めの販売店に依頼して原因を調べてもらい、適切な処置をしたうえでヒューズ交換をしてもらってください。

■日常の点検・手入れ

■ストーブは、いつもきれいにお手入れしてお使いください。
よごれたままでの使用は危険ですし、また器具も早くいたみます。

■点検・手入れは、必ず消火して、ストーブが冷えてから電源プラグを抜きとって行ってください。

■対震自動消火装置、電気部品等は、分解したり取り外したりしないでください。

▼周囲の可燃物

紙や布、プラスチックなど、燃えやすいものが近くに置いてないか、常に注意してください。

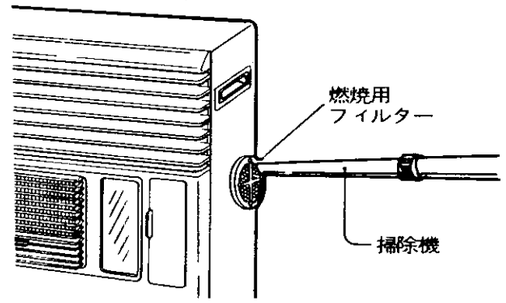
▼油もれ・油だまり

油もれや油だまりがないか、ときどき点検してください。
油もれがある場合は、すぐに消火し、もれた油をふきとってからお買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。

▼燃焼用フィルターのお手入れ

燃焼用フィルターが目詰りすると、不完全燃焼を起こして消火することがあります。
1週間に1回以上、掃除機などでホコリ等を取り除いてください。

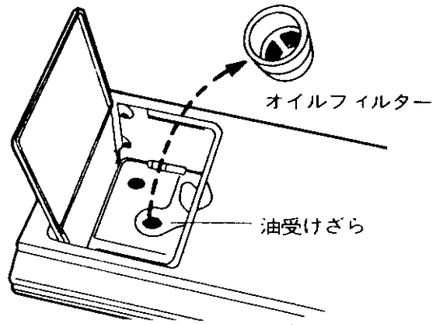
●水洗いもできますが、外して水洗いをしたときは、必ずよく乾かし、元どおり取付けてください。



▼オイルフィルターのお手入れ

給油タンクの下の油受けざら内にあるオイルフィルターが、ごみなどで目詰りすると、油のとおりが悪くなり、燃焼に悪影響を与えます。

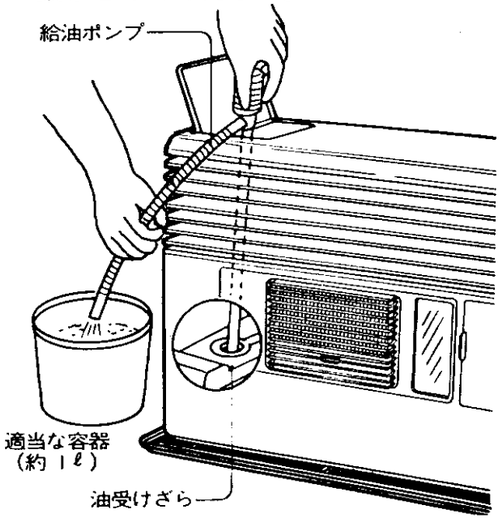
給油タンクを取り出した都度点検し、目詰りしているときは掃除してください。
①オイルフィルターを取り出し、たまっているごみは捨て、きれいな白灯油でよくすすぎ洗いをしてください。
②元どおり、必ず取付けてください。



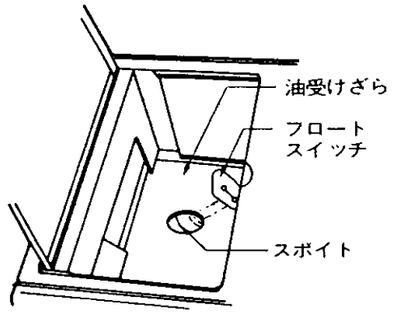
▼油受けざらの水抜き

「お知らせブザー」が鳴って、油量計ランプが３個点滅したときは、次の要領で油受けざらの水抜きを行ってください。

1 給油タンクを取り出して油受けざらからオイルフィルターを取り出し、下図のように市販の給油ポンプを油受けざらの右後方に差し込んで、水(灯油)を抜きとってください。



2 給油ポンプでは完全に抜けませんので、抜けきらなかった水(灯油)は、付属のスポイトをフロートスイッチ側に深く差し込んで抜いてください。



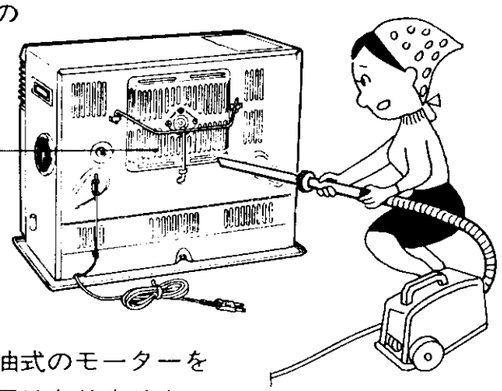
●念のため油受けざら内に乾いたボロ布を入れて、内部に付着した水もふいてください。

●油受けざら上やストーブ内に油をこぼしたり、油のしずくを落としたときは、きれいにふきとってください。

▼対流用送風機(温風ファン)ガードのお手入れ

対流用送風機(温風ファン)ガードにほこりがたまりますと、温風の出かたが少なくなって、ストーブ内の温度が高くなり、過熱防止装置がはたらきやすくなります。

１週間に１回以上、掃除機などでガードの掃除を行ってください。

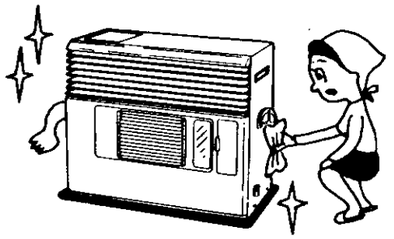


●対流用送風機、燃焼用送風機とも無給油式のモーターを使用していますので、注油(給油)の必要はありません。

▼ストーブ本体の表面の掃除

ストーブ本体の外側部分の汚れは、少し湿らせた布できれいにふきとり、その後乾いた布で仕上げふきをしてください。

●化学ぞうきんでふくのはおやめください。色があせたり、つやがなくなります。



▼対震自動消火装置の作動確認

月に１度は、燃焼中のストーブの置台部分を持って前後に水平にゆすり、自動的に消火するか確認してください。

消火しない場合は故障が考えられますので、お買い求めの販売店に点検を依頼してください。

ご注意

バーナ部、電気部品、対震自動消火装置などは、絶対に分解しないでください。点検・修理等には高度の技術を要しますので、必ずお買い求めの販売店にご依頼ください。

▼異物が入った際の取り出し方法

ストーブの内部に異物が入りますと、故障や火災の原因となります。

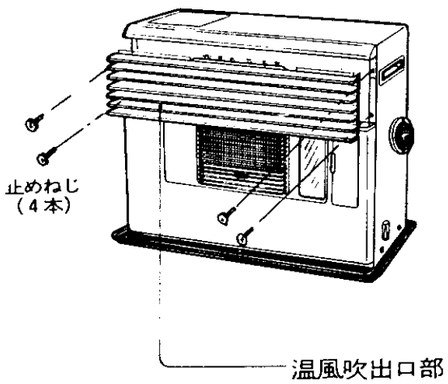
特にお子様が温風吹出口から紙くずやプラスチック等を入れることがありますので、じゅう分注意してください。

もし異物が入った場合は、ストーブがじゅう分冷えてから電源プラグを抜いて、温風吹出口部を外して、取り除いてください。

●温風吹出口部は、左右に各２本ある止めねじを外せば、取り外せます。

●中に入った異物などを取り出しましたら、元どおり組立ててください。

(温風吹出口部を外したままでは、絶対に運転しないでください。)



■故障・異常の見分け方と処置方法

燃焼のぐあいの悪いときは、つぎの表を参考にして調整、処置してください。
ご不審な点がありましたらただちに運転を停止し、お買い求めの販売店にご相談ください。

現象 ＼ 原因	油漏れする	白煙が出てすぐ止まる	使用中室内がにおう	点火しない	運転ランプが点灯しない	使用中に消火する	黄炎またはススが出る	処置方法	参照ページ
電源プラグをコンセントに差し込んでいない				●	●			電源プラグをコンセントに差し込む	12
停電中である				●	●			停電復帰後点火しなおす	16
給油タンクに灯油がない				●	●	●		給油する	11
油受けざらに水が入っている		●		●		●		水を抜く	21
温風吹出口がふさがれている						●		温風吹出口のしゃ閉物を取り除く	—
ストーブ周囲の隙間が適正でない						●		周囲の隙間を適正にする	7
給油タンクの給油口口金が、ゆるんでいる	●							給油口口金をしっかりとしめる	11
燃焼用フィルターの目詰まり		●	●	●		●		掃除する	20
燃焼用の空気量調節板の調整が適切でない		●	●	●		●		空気量調節板を調整する	10
ストーブが傾いている		●	●	●	●	●	●	水平器によりストーブの水平を確かめる	12
油配管の締付けが不完全	●							販売店に依頼し、確実に締付ける	—
加圧ホースの折れ、接続不良		●	●	●		●		販売店に修理を依頼する	—
油量調節器の空気だまり		●		●		●		点火操作を２～３回くり返す	13
電磁ポンプの故障		●		●		●		販売店に修理を依頼する	—
炎検知装置の故障				●		●		販売店に修理を依頼する	—
点火器の故障		●		●				販売店に修理を依頼する	—
燃焼用送風機、対流用送風機の故障		●		●		●		販売店に修理を依頼する	—
灯油が変質している		●	●	●			●	販売店に修理を依頼する	2

■サービスをお申しつけになる前に

次のような現象の場合は故障ではありません。
サービスをお申しつけになる前に、もう一度確認してください。

現象		理由
点火時	初めて使用するとき、煙やにおいが出る	耐熱塗料やほこりなどが焼けるためで、異常ではありません。
点火時	燃焼開始時、炎が赤火になる	最初は濃いガス化石油を出して点火を確実にするためで、異常ではありません。 10～20秒ぐらいで正常燃焼になります。
点火時	点火する前に白煙が出る	ガス化した石油に点火し、バーナ全周に炎が回るまでの間出るもので、異常ではありません。
点火時	すぐに点火しない	石油ガス化方式のため予熱時間が約２分程度必要です。また初めて運転する際は、灯油がじゅう分回るまでに時間がかかりますので、２～３回点火操作してください。
燃焼時	炎の状態が悪く、完全燃焼しない、においがする	●ストーブの水平を確認してください。 ●油受けざらに水がたまっていることが考えられます。 （水抜きを行ってください） （水検知ランプが点灯し、お知らせブザーが鳴る） ●酸素が不足しています。(お部屋の換気をしてください) （換気ランプが点滅し、お知らせブザーが鳴る） ●燃焼用フィルターにごみやほこりが付いています。 （掃除してください） （換気ランプが点灯する）
燃焼時	炎がだんだん小さくなり消えるか、点火してもすぐに消える	
燃焼時	燃焼中に突然炎が消え、キャビネットの上面が熱くなっている	対流用送風機ガードが、カーテン等でおおわれていたり、ホコリ等で目詰りしていることが考えられますので、これらを処置した後、再点火操作をしてください。
燃焼時	点火・消火・熱量切換わり時に、キシミ音が出る	ダクト部の膨張、収縮による音で、異常ではありません。

年に一度は専門家に点検を!!

日立石油ファンヒーターは、きびしい品質管理のもとに生産しておりますが、燃焼部分は非常に高温となる過酷な条件で使用されるため、長期間ご使用になりますと点検が必要です。
したがって、万一の事故などを未然に防止するためと、快適にご使用いただくために、シーズンはじめか、または保管前のどちらかに販売店に点検を依頼されることをおすすめします。(ただし点検は有料となります)

■部品交換のしかた

交換部品(消耗部品)は、ストーブをお買い求めの販売店でお求めください。

1 燃焼用フィルター

燃焼用フィルターが破損した場合は、「日立石油ファンヒーターOVF-370D形用燃焼用フィルター」をお求めのうえ、20ページ「燃焼用フィルターのお手入れ」にしたがって交換してください。

2 オイルフィルター

オイルフィルターが破損した場合は、「日立石油ファンヒーターOVF-370D形用オイルフィルター」をお求めのうえ、20ページ「オイルフィルターのお手入れ」にしたがって交換してください。

3 赤熱体

ガラス面の内側にある赤熱体の変形が大きくなったり、焼損した場合（強燃焼時でもガラス面が異常に暗い）は、「日立石油ファンヒーターOVF-370D形用赤熱体」を、お買い求めの販売店に依頼して交換してください。

■保管(長期間使用しない場合)

おしまいになるときは、次の要領でお手入れしてください。

1 油を抜きとる

●給油タンクは空にして、内部にごみや水(ドレン)が残らないようきれいな灯油でよく洗い、よく乾燥させてください。

●油受けざら内に水がたまっていることがあります。
21ページの「油受けざらの水抜き」を参照して、水(灯油も)抜きを行ってください。

2 ストーブの清掃

●燃焼用フィルター、オイルフィルターの掃除を行ってください。(20ページ参照)

●ストーブ外側のよごれやほこり等を、きれいに掃除してください。

●ストーブ内部の清掃も必要です。ただし内部の清掃はお買い求めの販売店に依頼してください。(内部の清掃は有料となります)

●ぐあいの悪いところは、保管前に修理しておいてください。

3 保　管

●ストーブをお買い求めになったときのダンボール箱等で包装し、湿気のない場所に保管してください。

●ストーブを逆さにしたり、横にしたり、傾けたりした状態で保管することは、絶対にしないでください。次シーズンに使用できなくなることがあります。

■仕　様

形式の呼び		OVF-370D
種類・形式		気化式、強制対流形
点火方式		高圧放電点火・自動点火
使用燃料		白灯油(JIS　1号灯油)
発熱量(入力)		3,200kcal／h
燃料消費量	最大	0.388ℓ／h
	最小	0.242ℓ／h
油タンク容量		5.0ℓ
燃焼持続時間		約12.9時間
外形寸法(置台を含む)		高さ510㎜ 幅614㎜ 奥行316㎜
重量		17.5㎏
電源電圧及び周波数		単相100V・50／60Hz
電流ヒューズ		10A(アンペア)
定格消費電力		点火時550／550W　燃焼時 92／90W(50／60Hz)
燃焼用送風機		(モータ)隈取形、(ファン)ターボファン
対流用送風機		(モータ)隈取形、(ファン)プロペラファン
安全装置		対震自動消火装置・過熱防止装置・電流ヒューズ 停電時安全装置・炎検知装置
付属品		スポイト、カーテンガード

■配線図